

側 瀬 敏 彦 氏

同窓生
南幌町議会 議長

与えられた環境で

誠心誠意取り組む。

おのずと道は拓ける。

栗沢町に生まれ、四歳のときに南幌町に移り住まれた側瀬さん。
 広大な農地を持っておられた家族の仕事を手伝いながら学ぶために南幌高校へ進学されたそうです。
 当時は、機械化が進みつつあった時代で、農業クラブのトラクター部門で活躍されていたそうです。当時の本校農業クラブは優秀な成績を収めており、全国大会の常連だったそうで、江別市や長沼町、北広島市などからも生徒が入学していたそうです。
 側瀬さんは野球部に所属し、キャッチャーとして同級生バッテリーを組まれ、支部大会で優勝するなど活躍されました。卒業後も道民スポーツ大会などで町役場のチームから声がかかり、若い人たちと野球を通じて地域に根ざした人脈を築いていけます。

高校卒業後は、家業の農業を手伝いながら土木工事の会社でも働き、若くして役職員になられます。四六歳になられた平成一年、締め切り寸前のタイミグであつたものの周囲から請われ、町議会議員に立候補され、当選されます。
 それまでも農協の青年部長なども歴任されますが、「何かをはじめたら最後まで責任を取らなければならぬ」と考え、とにかく与えられた環境で誠心誠意努力してこられた側瀬さんの姿勢を高く評価した先輩た



ちが引き立て、後輩たちも支えてくれたそうです。

その姿勢は議員になられてからも変わらず、町に賑わいをもたらし、町民同士がコミュニケーションを充実させ、「住んで良かった」

と思えるまちづくりを進めることを決意し、その実現のためには、議員を片手間にやるわけにはいかないとそれまで勤めておられた会社を辞め、新たな会社で仕事をやりつつ議員活動に注力されてきたそうです。その後、五二歳で副議長となられ、現在は町議会議長を務めておられます。ご自身としては勝ち馬に乗ることよりも自らが正しいと思っただけにこだわり、楽しく仕事をしてくださったと謙遜されておられました。

自分たちの出た南幌高校とは、農業科ではなくなり、道立移管され、赤レンガ校舎も新しくなり、一区切り

あるような印象はあるものの、現在の校舎の外構工事を請け負ったこともあり、やはり閉校になるということには、さみしい気持ちがあるとのことでした。当時、町内では正直悪評高かった南幌高校でしたが、生徒たちは外構工事を行っていた側瀬さんたちにも挨拶を欠かさず、そんないい印象を持たなかったとのことでした。



へ南高生への伝言へ

人数は少なくなりましたが学校で学んだことをしっかりと研修して世の中に出ていけば、必ず道は拓ける。

困ったときはそばに助けてくれる先輩は必ずいるもの。

「どこの学校」ではなく、どこであつても自分らしく「自分」の看板を背負って自分の足でたくましく生きて欲しい。

これまでに、請われていろいろな立場を経験されてこられた側瀬さん。

どこであつても、与えられた環境でいかに人の役に立つかを考え、成果を上げようとされてきた生き様が輝いておられました。

私事ですが、側瀬さんに「印象深かった先生はどなたでしたか？」とお聞きし

たところ、宇野先生をあげていただきました。

「大学時代、柔道をやっておられ、厳しく、でも優しく、人としての生きる道を教えてくださった。」

私の知っている宇野先生と似ている。もしやと思つて、調べてみましたら、その後校長になられ、私が二校にわたつてお世話になった宇野信之先生でした。若かりし日の宇野先生が本校に勤務されていたことは知りませんでした。ある意味宇野先生にお世話になるのは三校目になったような不思議な縁を感じました。残念ながらご退職されたからまもなく、若くしてお亡くなりになられました。ご存命であれば、ぜひインタビューさせていただきたかったのですが、叶いません。ぜひ天国から南幌高校を最後まで見守っていてください。